第二十七回合宿教室　第二日　（八月九日ー月ー）御講義要旨。　（霧島ホテルにて）

黒上正一郎著『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』の

班別輪読のための導入講義

亜細亜大学教授　小田村寅二郎
国民文化研究会理事長

一、輪読個所として取上げるのは、今回は「第四編、聖徳太子の御思想表現法と法華義疏の独創的内容を論ず」の「一、序説」171ページから181ページまでとする。

二、右に先立つてお話しておきたいこと。

(イ)著者・黒上正一郎といふ方について。

(ロ)著者が提唱してゐる〃文献文化史的研究〃とは。

(ハ)著者が敬仰する聖徳太子といふ方について。

ー「十七条憲法」、「三経義疏ー勝鬘経義疏・維摩経義疏・法華義疏ー」

(ニ)著者が敬仰する明治天皇の「しきしまのみち御修業」について。

(ホ)著者自身もまた「しきしまのみち」を実践されたこと。ー新刊『黒上正一郎先生の、うたと消息』参照ー

三、私の「輪読」指導の方法と、取り上げの順序。

(イ)、前項の「(イ)文献文化史的研究」と「(ニ)明治天皇のしきしまのみち」についてに関する個所として175ページ末からの一行目から181ページ5行目までを。

(ロ)、大乗仏教における釈尊（仏）が示す大慈悲心とは。その大慈悲心を「大悲」ともいふ。

「維摩経」における「維摩居士」といふ人物について。

聖徳太子は維摩居士の徳を讃歎して（テキスト45ページ）

「維摩詰とは、乃ち是れ己登正覺の大聖なり。本を論ずれば、既に眞如と冥一なり。迹を談ずれば、即ち萬品と同量なり。徳は衆聖の表に冠し、道は有心の境を絶す。事は無為を以て事と為し、相は無相を以て相と為す。何ぞ名相として稱すべきことあらむ。国家の事業を煩となす。但大悲息むことなく、志益物を存す。形は世俗の居士に同じく処は毘耶の村落に宅り。」

(ハ)、〃切実深刻の人生観〃を求めて、著者が聖徳太子を敬仰するくだり、として171ページから以降を。